

Title	江戸川区史
Sub Title	
Author	江坂, 輝彌(Esaka, Teruya)
Publisher	三田史学会
Publication year	1956
Jtitle	史学 Vol.29, No.1 (1956. 5) ,p.91- 93
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560500-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ムスやベートーヴェンやブルックナーなどにも相當の紙數を割いていないようないわば教會文化史といつてよいものである。問題はこの本が中世↓近代↓現代ヨーロッパの形成過程を啓蒙史觀とはちがった角度から見ているその視座にあるのである。それがわれわれにとつてヨーロッパを最も内から理解する手がかりとなる一つの逆啓蒙的作用をもつているところに意義がある。ヨーロッパ中心の時代はもう終つたかもしれない。だがヨーロッパのこの古い深い根を無視して單なる表皮の新しさと枝の尖端だけを追つてもヨーロッパの眞姿はとらえられないということを思わせてくれるだけでもこの本の價値は大きい。

尙参考までにこの本の英譯書をあげておく。Joseph Lortz, *History of the Church, adapted from the 5th and 6th German Edition by Edwin G. Kaiser, C. P. S., S. T. D., Milwaukee, U. S. A., 1939.* 英譯はわりに忠實に文意を捉えているので一應信用して讀める。たゞ原著者が美術などにわたつても専門的な術語を使つて正確に述べているのに、それを平易な語にくだきすぎて多少重要なニュアンスを失つてゐる點があるのは惜しまれる。しかしそのためドイツ的固さがくだけて英譯の方が讀みやすいともいえる。だが特に終り近く紙數の關係からか省略個所が多くなるのは残念である。しかもロルツ教授の教會合同論的な歴史哲學的にかなり重要な説明個所が抜けているのは遺憾である。前述したように、この著者の歴史哲學は教會史のネガティブな面の理解にとつて必要不可欠なものだからである。また英

譯者がアメリカのカトリック教會史を書き加えているが、とりたてて云うほどの内容は無い。(神山四郎)

江戸川區史

(A5、折込附圖5、アート寫眞圖版12
頁、本文一三五六頁、索引四八頁、昭和30年3月江戸川區役所發行)

本書は郷土史研究家故木下晴弘氏が、昭和二七年一月以降各方面の協力を得て、銳意編纂に努力せられ、昨年春完成されたものであるが、木下氏は本書の刊行が成つて間もなく、かねて宿痼の病あらたまり永眠せられた。従つて江戸川區史の大著は木下晴弘氏の最後の著述となつてしまつた。

本書の内容を目次によつて紹介すれば

序説 第一章 江戸川區の自然地理 第二章 行政區画の變遷

前篇 古代から江戸時代まで 第一章 考古學から見た江戸川

區 第二章 上代における下總國 第三章 奈良・平安時代

第四章 鎌倉から室町時代へ 第五章 江戸時代

後篇 明治時代から現代まで 第一章 自治制と行政 第二章

區會と公議會 第三章 財政 第四章 土地と建物及び人

口 第五章 教育と文化 第六章 資源と産業經濟 第七

章 保健と衛生 第八章 民生と労働 第九章 交通・土

木・治水・通信 第十章 警察と消防(附檢察と裁判)

第十一章 神社と寺院 第十二章 文化財と傳説、觀光と

風俗 第十三章 災害と救済 となり、

編纂者としては区内關係の文書の蒐集には非常な努力をほらわれた如くであり、特に区内の各舊家に残る近世の庶民史料はくまなく蒐集し、整理研究を行われた如くであり、第五章江戸時代には前篇の大半の頁數を割かれ、四百余頁に及ぶ雄篇となつており、近世のこの方面の地方史研究者には、缺くことのできない著書であると共に、江戸川區の江戸時代の一般庶民の生活状態を復原しようとされた努力は、江戸近郊の近世地方史研究に一指針を與へたものとも思われるが、評者はこの方面には全く門外漢であり、郷土史研究に永年努力せられた木下氏に對し盲評はかえつて失禮とも考へるので、本稿においては特に江戸川區の考古學的研究記事についてのみ、紹介と批評をなす次第である。

尙本區史の考古學的研究は木下氏の手足となつて、區史編纂事業に區史編纂補助員として協力した、現在慶應義塾大學文學部史學科四年に在籍する可兒弘明君の調査研究になるところが非常に多い。

序説 第一章 江戸川區の自然地理の中でも『江戸川區の誕生』『区内の地質』『区内發見の化石』などの項を設け、冲積世前半の縄文文化時代の地史について特に詳細に記され、『江戸川區の誕生』の中では、東京東部低地に於ける彌生式、原史、歴史時代遺跡の地名表が掲載されている。

また『区内發見の化石』の項で紹介されている区内發見の貝類化石の目録は、この附近の有樂町化石貝層の貝類研究上の重要な基礎資料になると考へる。

前篇 第一章 考古學から見た江戸川區は、一、先史時代の頃 二、先史時代の江戸川・隅田川流域 三、原史時代の頃、の四節よりなつてゐる。

一、では南關東地方における縄文式文化より彌生式文化への編年的推移を略説し 二、では奥東京灣の後退と聚落の低地進出、遺跡の分序とその文化、区内發見の先史時代遺跡・遺物の項に分けて記している。

奥東京灣の後退と集落の低地進出については、縄文文化時代における奥東京灣の海浸海退運動を略説し、ついで海退後、古代人が海退により陸化した冲積低地へ進出して行つたありさまを記している。

区内發見の先史時代遺跡・遺物としては、興宮發見の縄文土器、小岩町の彌生式土器、上篠崎町出土の彌生式土器などが報告されており、興宮發見の縄文土器は僅か二片の小土器片であるが、縄文文化早期の茅山式土器片であり、注目すべき遺物である。また小岩町六丁目遺跡は遺物包含層があり、彌生式文化後期の聚落遺跡と推定されることである。上篠崎町勢増山稻荷神社附近の遺跡は須惠器・土師器などの破片が表面に散布する原史時代の遺

跡であるが、昭和二十八年江戸川區郷土研究會が發掘調査した折
り、彌生式土器片も出土した旨が記されている。

三、原史時代の頃、この項も先づ最初に「時代のあらまし」な
る項を設け、わが國の原史時代文化について略説をなし、ついで
『江戸川流域の原史文化』なる項をつくり、江戸川流域の原史時代
遺跡について簡単に報告し、次に『區内發見の遺跡と遺物』なる
項で、小岩町六丁目上小岩遺跡、勢増山遺跡、小松川境川遺跡、
鹿島山遺跡、春江町遺跡などについて報告している。

小松川境川遺跡は西小松川町香取神社附近に所在する鬼高式の
土師器を出土する遺跡で、須惠器も出土し、また中小型の管狀
土錘が多數發見され、この時代この附近が砂洲をなし、東京灣奥
部の汀線がこの附近にあつたことが想定され、原史時代の東京灣
岸の海岸聚落を考える上に興味ある遺跡である。

區史編纂の前に一應の發掘調査でも行い、聚落址としての遺跡
の實體を若干なりと把握し、いますこし詳細な報告がなされたな
らと残念に思うものは評者一人ではないであろう。

本一色町鹿島山遺跡は土錘、常滑焼などを出土する鎌倉乃至は
室町時代の貝塚と報告されており興味を引くものである。

また後篇第十二章の中に『埋藏文化財と區内の板碑』の項があ
り、區内に現存する三二例の板碑が紹介されており、年號は康永
二年(一二五三年)から享祿四年(一二五三年)のものまであり、

種子は阿彌陀が大半を占めるが、題目板碑も二例ほど見られる。
以上江戸川區史の一端考古學的研究部門の紹介をなした次第で
ある。なお昭和三十年三月には杉並區史、足立區史、新宿區史、
荒川區史(上・下二卷)なども刊行され、いつれの區史も、自區
内發見の遺跡、遺物の研究に相當數の頁を割かれていることを附
加しておく。

雜 報

福澤自筆の葉書について

富 田 正 文

私は曾て本誌第二十七卷第二・三號慶應義塾史研究特輯號の口
繪に福澤自筆の葉書を掲げ、その説明文の一節に次のように記し
た。

この葉書は(中略)第一面は青色刷りオーナメント野で縁どり、
左上隅に同色で一錢切手を刷り、左端中央に「郵便はがき印紙」
の文字を刷り出してある。第二面は赤色刷で規則を掲げ、第三面
が通信欄、第四面が無地である。

郵便ハガキ紙並封囊發行規則の出たのが明治六年十二月一日
で、様式が改まつて現行の一枚ものになったのが明治八年五月十